

元旦スケッチ集

静かなる微笑みに明け

静かなる微笑みに明け

わがこころ悦しみに憂ゆ

何事の願ひぞありや

この慶き日

我やすらかに御霊を納かへさん

門松に光在り

門松に光りあり

いちはやくおおつもごりの日めぐりをはぐ

曲り木は曲れるままに

病める身は病めるままに ほどのよさ

御供に歳を點して

ああこれでよし これでよし。

七千の針の群れ

神経痛を病める者ありー

七千の針の群れ

恰も肉の中を駆けめぐる如

御飾りの何にめでたからん

着布團をばりばり噛みて

終日 哀號哀號と叫ぶあり。

静臥

とつくにの少女をとめあり

青き瞳めの静かに光る

につぼんの羽子板抱きて

とつくにの初日を臥める。

(新春詩集 詩話会編)

(昭和十三年「山桜」一月号)